

目次

はじめに

序 章	社会保障制度改革にみる 「脱キャッチアップ的挑戦」	金成垣	I
1	キャッチアップか、新しい挑戦か		1
2	社会保障制度改革にみる韓国固有の特徴		2
3	「脱キャッチアップ的挑戦」と「福祉国家的ではないもの」		12
4	本書の概要と構成		17
第1章	なぜ、「社会保険ではない制度」 が広がりつつあるのか	金成垣	19
1	社会保障制度の整備とその後		19
2	社会保障制度の機能不全と求められる「社会保険ではない制度」		21
3	多数派を占める不安定就労層への対応		29
4	「雇用」を前提としない社会保障制度へ？		31
第2章	なぜ、税方式の基礎年金が拡大しているのか	裴俊燮	34
1	高齢者の貧困問題に対する矛盾した政策対応		34
2	矛盾する政策理念が混在する韓国の老後所得保障制度		35
3	後発性ゆえの特徴と新しい可能性		42
第3章	なぜ、民間「認知症保険」の加入が進むのか	金圓景	47
1	民間の認知症保険の広がり		47
2	認知症保険の展開と保障内容		48
3	セーフティネットとしての認知症保険		54
第4章	なぜ、公的扶助で「就労の場」の提供が 進められてきたのか	金碩浩	60

1	公的扶助として「就労の場」を提供する自活事業の導入	60
2	多様な就労の機会を提供する自活事業とそれを支える仕組み	62
3	雇用なき成長時代の固着とその対応策としての自活事業の拡大	68
第5章	なぜ、社会的経済政策が進められてきたのか	呉世雄 80
1	広がる社会的経済・社会的経済組織	80
2	社会的経済関連政策の展開過程	81
3	政府主導で進められた社会的経済政策	88
4	社会的経済政策への逆風と今後の行方	93
第6章	なぜ、高齢者貧困が深刻化するのか	李省翰 97
1	高齢社会による社会課題、そして高齢者貧困	97
2	高齢者貧困の社会的背景と実態	98
3	高齢者貧困の3大要因	101
4	高齢者貧困対策への期待を寄せて	107
第7章	なぜ、高齢者の孤独死を防止できたのか	鄭熙聖 110
1	ひとりで孤独な死を迎える時代の到来	110
2	孤独死の定義	113
3	孤独死防止のための新たな展開	114
4	高齢者の孤独死防止策の成果と課題	120
第8章	なぜ、長期療養保険制度下に 介護予防事業が存在しないのか	金美辰 125
1	長期療養保険制度と介護予防	125
2	老人福祉館の役割にみた介護予防	126
3	介護予防事業を担うこととなった老人福祉館	133
第9章	なぜ、少子化対策は効果がないのか	金成垣 138
1	少子化対策の積極的な推進、ますます深刻化する少子化	138
2	少子化対策の展開	143
3	求められるのは「少子化対策」だけではない	154
4	個人単位の新しい社会システムの構築へ	159

第10章	なぜ、養育費履行確保制度の強化は可能だったのか	姜民護	162
1	養育費履行確保制度に対する2つの立場		162
2	強固な反対のなかで強化された養育費履行確保制度		163
3	「行政制裁」と「刑事処罰」の法制化をもたらした3つの要因		168
4	養育費履行確保制度の強化過程にみる「韓国ならではの」特徴と示唆		172
第11章	なぜ、政治は障害者運動に反応したのか	孔栄鍾	176
1	終わりなき障害者「権利」運動		176
2	何が違って、何が変わっていないのか		178
3	「変わっていないもの」への運動に政治を反応させたのは何か		184
4	「変わっていないもの」への挑戦とその意義		190
第12章	なぜ、在留外国人の福祉アクセシビリティ確保が推進されてきたのか	李恩心	192
1	多文化共生政策と福祉アクセシビリティ		192
2	在留外国人の現状と生活支援		193
3	多文化共生政策の推進と福祉アクセシビリティ確保の併存		204
4	さらなる福祉アクセシビリティ確保に向けて		207
第13章	なぜ、総合社会福祉館が地域福祉の担い手になったのか	崔恩熙	211
1	地域住民のニーズに応じてきた総合社会福祉館		211
2	総合社会福祉館の始まりから地域に定着するまで		213
3	総合社会福祉館の始まりと展開		216
4	満を持して福祉サービスの地域拠点になった総合社会福祉館		221
第14章	なぜ、農村ではマウル会館に高齢者が集まるのか	金吾燮	226
1	毎日マウル会館に集まる高齢者たち		226
2	マウル会館の歴史と現状		226
3	マウル会館の魅力は何か		232

4	人口消滅時代のマウル会館	236
第15章	なぜ、療養保護士の国家資格取得者が多いのか	任セア 238
1	療養保護士国家資格の流行	238
2	療養保護士の概要	239
3	療養保護士の資格取得者が多い理由	247
4	介護人材不足問題の改善への期待と示唆	251
第16章	なぜ、「死の教育」関連の民間資格が急増したのか	孔英珠 253
1	ウェルビーイングからウェルダイニングへ	253
2	「死の教育」と民間資格の現況	255
3	未熟なウェルダイニング文化と死の教育の商品化	259
4	死の教育の役割と死の教育関連資格の課題	264
第17章	なぜ、福祉行政ICT戦略が迅速に進んだのか	羅珉京 267
1	世界トップクラスのデジタル政府	267
2	デジタル政府の推進と福祉 ICT 化	268
3	「福祉死角地帯」への対応に向けた政府主導型の ICT 化戦略	275
4	第4次産業革命の時代を生き抜く福祉行政の姿	280
終章	新たな挑戦をどうみるか：示唆と展望	呉世雄 284
1	気になる読み手の見方	284
2	韓国の福祉事情からの示唆	284
3	さらなる挑戦に向けて	292

参考文献

事項索引

執筆者紹介